

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告0件(前月比 ー、前年同月比 ー)で、今季は2月をピークに減少し、7月8件で8月は報告がありませんでした。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告数2,428件(前月比 0.6、前年同月比 0.7)で、先月および前年同月を下回っています。ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、水痘の減少によるものです。とくにヘルパンギーナは前月比 0.3と大幅な減少を認めました。他の疾患も同様に減少傾向を認めます。その中で件数は少ないもののRSウイルス感染症が前月比 3.5と増加し注目されます。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症:

報告件数28件(前月比 3.5、前年同月比 0.2)でした。1月から毎月漸減し5~7月は一桁~ゼロ(6月)でしたが、8月は28件と増加に転じました。同様に昨年も8月から増加に転じ、その後急激な上昇がみられ9月、10月にピークに達しています。今後の動向に注意する必要があります。

2. 咽頭結膜熱:

報告数54件(前月比 0.8、前年同月比 0.2)でした。1月から減少傾向が続き、5月に小ピークを認め、その後再び漸減しています。昨年、一昨年は8月、9月に増加を認めたのと対照的に今年は最も少ない件数です。

3. A群溶連菌咽頭炎:

報告数218件(前月比 0.6、前年同月比 1.1)でした。5月のピーク後は連続的に減少し、8月は前月から大幅に減少しました。例年なみの推移を示しています。その中で人吉地区からの報告が目立ちます。

4. 感染性胃腸炎:

報告数913件(前月比 0.8、前年同月比 0.8)でした。1月から多少の増減はあるものの減少傾向を示しています。例年並みの推移といえます。有明、菊池地区からの報告が若干多いようです。

5. 水痘:

報告数154件(前月比 0.5、前年同月比 1.0)で、8月は前月から半減しました。例年と比べると今年は全体的に少ないようです。

6. 手足口病:

報告数389件(前月比 0.7、前年同月比 0.8)でした。昨年6、7月の急峻なピークと比べて今年は300~500件と比較的少数の件数で推移しています。今後は次第に減少していくものと推測されます。

7. 伝染性紅斑:

報告数6件(前月比 3.0、前年同月比 2.0)で、1月から年間を通じて少数で推移しています。

8. 突発性発疹症:

報告数189件(前月比 0.8、前年同月比 0.8)でした。今年は7月にピークを迎え、8月は再び減少に転じました。ほぼ例年並みの推移と考えられます。

9. 百日咳: 報告数4件(前月比 0. 8、前年同月比 4. 0)でした。5月に8件の報告後は毎月1~2件ずつ減少しています。熊本地区1件、菊池地区1件、八代地区2件で、年齢は1歳1件、6歳1件、7歳1件、10~14歳1件でした。年間を通じて例年より多い報告です。
10. ヘルパンギーナ: 報告数245件(前月比 0. 3、前年同月比 0. 6)でした。7月のピーク後、8月は急峻な減少を認めます。例年並みの推移と考えられます。天草地区、菊池地区からの報告が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎: 報告数23件(前月比 0. 7、前年同月比 1. 0)で、1月から大きな変動なく、20~40件と少数で推移しています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数49件(前月比 0. 7、前年同月 1. 1)と減少しています。1月以来の発症状況はほとんど昨年と同じ推移で、平成24年度に多発した7月、8月は減少しています。地域別では熊本45件、菊池1件、有明2件、天草1件の報告です。年齢別では流行が心配されていました乳幼児層の発症が減少しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

今月の特徴として、淋菌感染症が38件(前月比 1. 6、前年同月比 2. 0)と多く、特に熊本市に26件と多く見られています。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数53件(前月比 1. 1、前年同月比 1. 0)で、前月比は5件増加、前年同月比は1件減少しています。男女別は、女性が30件と多く見られています。年齢別は、女性は20~24歳に16件と多く、男性では15~24歳に11件、30~34歳に4件と多く見られています。地区別は、熊本34件と圧倒的に多く、次いで八代8件、人吉、有明各3件、菊池、御船各2件、宇城に1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数26件(前月比 1. 7、前年同月比 1. 5)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、同数でした。年齢別は、女性は15~70歳以上と幅広く、男性も15~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が17件と圧倒的に多く、次いで菊池5件、八代、有明に各2件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は3件(前月比 0. 8、前年同月比 0. 8)で、前月比、前年比とも減少しています。男女別は、男性1件、女性2件です。年齢別は男性が20~24歳に、女性は20~29歳に見られています。地区別は、熊本2件、菊池1件でした。
4. 淋菌感染症:
報告数は38件(前月比 1. 6、前年同月比 2. 0)で、前月比、前年同月比とも著明に増加しています。男女別は、男性に30件と多く見られています。年齢別は、男性は20~39歳に20件と多く、女性は20~34歳に見られています。地区別は、熊本26件と圧倒的に多く、次いで八代4件、有明3件、菊池、宇城各2件、御船1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数2件(前月比 1. 0、前年同月比 2. 0)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数2件(前月比 0. 3、前年同月比 0. 2)でした。
3. マイコプラズマ肺炎:報告数5件(前月比 2. 5、前年同月比 0. 5)でした。
過去2年より少ない傾向が続いています。
4. クラミジア肺炎: 報告数1件(前月 0件、前年同月比 1. 0)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数1件(前月 0件、前年同月 データなし)でした。
(ロタウイルス)

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数24件(前月比 0. 8、前年同月比 0. 9)でした。先月より減少していますが、減少は頭打ちが続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数1件(前月比 0. 1、前年同月比 0. 3)で減少しました。
9歳以下は0件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で1件のみです。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で0件です。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:31件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:54件
- 4類感染症: 日本紅斑熱:3件
レジオネラ症:2件
- 5類感染症: アメーバ赤痢:1件
侵襲性肺炎球菌感染症:1件
梅毒:1件